

## 第5学年 道徳学習指導案

日 時 平成17年10月28日(金) 1校時  
対 象 3組 (男16名 女22名 計38名)  
指導者 柴内 宏 充

1 主題名 かけがえのない命 [生命尊重 3-(2)]

2 資料名 命 出典：学研「みんなのどうとく」5年

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第5学年及び第6学年の指導内容3-(2)は「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する」となっている。

人間にとって一番大切なもの、それは「命」である。そして、自分の生命がかけがえのないものであると同様に、他の生命もまた大切なものである。

この時期の児童は、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。また、生命に関わる学習を通し、生命の尊さや多くの人々の生命を守ろうとする願いや努力に気付いていく。このような人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さを知ることから自他の生命を尊重し、力強く生きていこうとする心を育てることが重要である。

(2) 児童について

生命は大切なものだということは言葉の上ではほとんどの子がわかっている。また、道徳性検査の結果からも「自然や崇高なもののかかわり」の面が高評価であり、特に生命尊重が全国基準よりも高い。さらに昨年度行った、全校の道徳アンケートの結果からも、自分たちが今できているものとして生命尊重が挙げられている。総合的に考えて、生命尊重の指導が十分であると判断することもできる。しかし、道徳検査を詳しく調べてみると、判断・心情的のずれの項目では、判断の方に傾いている子が多い。

実際に児童の行動を観察してみると、学級の金魚にえさをあげたり、しおれそうな花に水をかけてあげたりする行為は生命を尊ぶものだろう。しかし、中には友達が傷つく言葉を平気で言ってみたり、言葉で問題解決できず平気でたたいてみたりすることもある。また、登下校のときなど理解しているはずの交通ルールを守らないこともあり、自他の生命を危険にさらしていることも少なくない。要するに頭では理解していても、心がまだ付いていかない状態であると感ずる。

このような実態の児童にこそ、生命の尊さをより深く実感させ、多くの人が自他の生命を守るため努力していることを知らせる必要があると考える。

(3) 資料について

本資料は、神経芽細胞種という病気のために5年生の時に亡くなった宮越由貴奈ちゃんが、病院の院内学級での経験をもとに書いた「命」という詩を中心にまとめている。まだ11歳の女の子が、命が簡単に失われているニュース報道を見て、「身のまわりの友達が生きたくても生きられないのになぜ」という憤りや、自分は精一杯生きようという思いを詩に綴っている。その思いは由貴奈ちゃんとは全然関わりのない、いじめのあったクラスの子どもたちにも影響を与えることとなる。

この資料での、由貴奈ちゃんの「電池はいつかは切れる」「命はいつかはなくなる」「電池はすぐとにかえられる」「命はそう簡単にはとにかえられない」といった言葉は、現在の児童一人一人に深く考えさせたい言葉である。子ども病院での様々な経験の上でしか抱くことのできない思いでもあるかもしれない。しかし、一つしかない命の尊さ・かけがえのなさに気付かせ、命を大切にしようとする気持ちを育てるのに適した資料である。

(4) 指導にあたって

気づく段階においては、まず「命」の詩を提示し、作者について想像させる。その上で作者が自分たちと同年代の女の子、宮越由貴奈ちゃんだったことを押さえさせ、「由貴奈ちゃんの「せいっぱい生きる」とは、どういう生き方なのか」考えるという課題意識をもたせる。

見つめる・つかむ段階では、院内学級の先生に詩を見せたときの由貴奈ちゃんの気持ち→「命」の詩が書かれた背景から捉えられる由貴奈ちゃんの憤りと自分が精一杯生きるという気持ち→由貴奈ちゃん本人の知らないところで広がりを見せる「命」の詩の影響、と通して見ることで命の大切さに対する考えを深めさせたい。

広げる段階では、「今のあなたがかけがえのない存在」であるという旨の保護者の方からの手紙を読み、命と向き合いながら、自分の命が自分にとっても周りの人達にとっても本当に大切なものであるということを実感させたい。

まとめる段階では、心のノートに本時学習で心に残ったことを記入させ、命の学習の足跡を残したい。

めざす子ども像	かけがえのない自他の命を大切にしようとする子ども 主価値(生命尊重)
---------	---------------------------------------

月	学期	各教科等における体験活動	道徳の時間	他の教育活動	家庭・地域		
4	1	社会科 稲作にはげむ人々 ねらい ・バケツ稲への取り組みを通し育てる人の苦勞を知る。	主題名 きょう土を愛する心 資料名 わたしの心のアルプス 価値 郷土愛 4-(7) ねらい 郷土の持つ美しさへの感動を大切にし、郷土の美しさを再発見し、郷土を愛する心情を育てる。				
5			主題名 自然を大切に 資料名 チョモランマ清掃登山隊 価値 自然愛 3-(1) ねらい 自然の偉大さを理解し、自然との共存のあり方を積極的に考え、自分のできる範囲で自然環境をよくしていくこととする心を育てる。				
6			社会科 自然を生かした農業 ねらい ・岩手県の自然を生かした野菜作りについて知る。				
7		理科 生命の誕生 ねらい ・母体内での子どもの成長の様子について理解する。	主題名 家族の幸せ 資料名 新しい家族「陽平」にカンパニー 価値 家族愛 4-(5) ねらい 家族の一員として、家族の幸せを求め、進んで役に立つことをしようとする態度を育てる。			性指導 ・生命の誕生について知り、命の大切さを考える。	地区別奉仕活動 (厨川中学校の生徒との合同作業)
8		総合的な学習 区界探検をしよう ねらい ・林間学校で自然に十分に親しみ自然の良さを知る。 ・集団活動の良さを実感する。	主題名 とうとい命 資料名 母とながめた一番星 価値 生命尊重 3-(2) ねらい 生命の尊さを理解し、生命を大切に生きて力強く生きようとする態度を育てる。			2年生の時の性指導 生命の誕生について	誕生に関するお家の方からの手紙
9		総合的な学習 ボランティアに取り組もう ねらい ・ボランティアへの取り組みを通し、他者の立場に立った考え方を知る。	主題名 かけがえのない命(本時) 資料名 命 価値 生命尊重 3-(2) ねらい 生命がかけがえのないものであることを知り、進んで自他の生命の大切さについて自覚を深める				我が子のかけがえのない命を大切に思ってお家の方からの手紙
10							
11							
12		3					
1			主題名 家族のぬくもり 4-(5) 資料名 わが家の思い出 価値 家族愛 4-(5) ねらい 父母を敬愛し、自他の役割を自覚して、家族のために進んで役に立つとする心情を育てる。				
2							
3							

5 本時の指導

(1) ねらい

生命がかけがえのないものであることを知り、進んで自他の生命の大切さについて自覚を深めようとする心情を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	予想される 発言や心の動き	指導・援助の 留意点
気 づ く      10 分	<p>1 命の詩を読んで、どんな人が書いたのかを想像してみる</p> <p>○この詩は、どんな人が書いたと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人か子供か</li> <li>・男の子か女の子か</li> </ul> <p>2 資料「命」を読んで感想を出し合い、学習課題を確認する。</p> <p>○思ったことや考えたことを発表してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「せいっぱい生きる」とは、どういう生き方なのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども</li> <li>・女の子</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいそうな感じがする。</li> <li>・どうしてこんな詩を書いたのだろう。</li> <li>・この詩を聞いたクラスでいじめがなくなったのがすごい。</li> </ul>	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>詩だけを提示し、作者について想像させる。(途中で本人の字で書いた詩に揭示し直し、同年代の女の子が書いた詩であることをきちんとつかませる。)</p> </div>
見 つ め る	<p>3 命の詩について考え、話し合う。</p> <p>(1) 院内学級の先生に、詩を見せたときの由貴奈ちゃんの気持ちについて考える。</p> <p>○由貴奈ちゃんは、どんなことを考えながらこの詩を山本先生に見せたと思いますか。</p> <p>(2) 由貴奈ちゃんの詩の背景について考える。</p> <p>○「電池」と「命」を比べることで由貴奈ちゃんのどんな思いを感じ取ることができますか。</p> <p>○由貴奈ちゃんはどのようにしてこの詩を書こうと思ったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を込めて書いた詩を見て欲しい。</li> <li>・自分の思いを伝えることができる詩を、書くことができた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電池が切れることと命が無くなってしまふことは似ているかもしれない。</li> <li>・命は一つしかない。死んだらそこで終わる。交換できない。</li> <li>・命がとても大切だとわかる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にしない人に腹を立てたから。</li> <li>・身のまわりの友達が一生懸命生きようとしているから。</li> <li>・自分も、今精一杯生きようとしているから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電池と命を対比して、命は取り替えがきかないことを押さえる</li> <li>・由貴奈ちゃんが精一杯生きようとしていることを十分に押さえる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・由貴奈ちゃんの憤りとともに、命に向き合っているからこそ書くことのできた詩だと捉えさせる。</li> <li>・闘病生活の大変さや苦しさ等に触れ詩を書いたときの心境を感じ取らせる。</li> </ul>

つ か む  27分	<p>(3)「命」の詩が周囲に与えた影響について考える。</p> <p>○いじめが起こっていた学級で、この詩を読んだとき、どんなことを考えたと思いますか。</p> <p>4 本時の学習から考えたことを話し合い、命の大切さについて考える。</p> <p>◎「命が疲れたと言うまで精一杯生きる」とは、由貴奈ちゃんのどんな生き方だと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きたくても生きられない人もいるのに、自分たちは何をやっているのだろう。</li> <li>・今までの自分が恥ずかしい。</li> <li>・天国の由貴奈ちゃんに今の自分たちの思いを伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この学級だけでなく、もっと広く影響を与えたことにも触れる。</li> </ul>
広 げ る  5分	<p>5 かけがえのない存在であるわが子を大切に思う保護者の手紙を読む。</p> <p>○お家の方からの手紙を読んで、改めて自分の命と向き合ってみましょう。</p>		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>自分が保護者にとってかけがえのない存在であることを改めて確認させ、自分の命の大切さに気付かせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身が命に向き合った経験があるか、考えさせたい。</li> </ul>
ま と め る  3分	<p>6 心のノートに自分の思いを書き込む。</p>		

6 板書計画

かけがえのない命

- ・ せいいっぱい生きる
- ・ 自分の命をととても大切に
- ・ 周りの命みんなを大切に
- ・ 今自分にできることを一生懸命やる

・ さらにたくさんの人に  
感動の輪が広がっている。

…いじめが消えた

・ いじめがあった学校

・ 命を大切にしない…腹が立つ。

・ 身のまわりの友達

・ 懸命に生きようとしている

・ 自分…今精一杯生きよう

活字のみの詩

由貴奈ちゃん自身の文字と絵の拡大コピーを掲示

命

「せいいっぱい生きる」とは、  
どういう生き方なのだろう。

7 資料分析

資料名

命

(出典 学研「みんなのどうとく」5年)

◎ ねらい

生命がかけがえのないものであることを知り、進んで自他の生命の大切さについて自覚を深め用とする心情を育てる。

場面	② 先生に詩を見せる 由貴奈ちゃん	① 「命」の詩	③ 広がっていく メッセージ	④ 精一杯生きる
外的状況と主人公の気持ち	<p style="text-align: center;"><b>生 命 尊 重</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・由貴奈ちゃんの伝えたい思い。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>命のメッセージ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・由貴奈ちゃん自身がこの詩を書くことを通して</li> </ul> <p style="text-align: center;">命と向き合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電池と命の比較</li> <li>・精一杯生きようとする由貴奈ちゃんの思い。</li> </ul> <p style="text-align: center;">命と向き合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しんと静まりかえった。</li> <li>・この詩をぬいこんだタペストリーをクラス全員で作った。</li> </ul> <p style="text-align: center;">命と向き合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(繰り返される)「私は命が疲れたと言うまで精一杯生きよう」</li> <li>・今も大きな感動の輪を広げている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">命と向き合う</p>
児童の意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を込めて書いた詩を見て欲しい。</li> <li>・自分の思いを伝えることができる詩を、書くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にしない人には腹を立てたから。</li> <li>・身のまわりの友達が一生懸命生きようとしているから。</li> <li>・自分も今精一杯生きようとしているから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きたくても生きられない人にも、自分たちは何をやっているのだろう。</li> <li>・今までの自分が恥ずかしい。</li> <li>・天国の由貴奈ちゃんに今の自分たちの思いを伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の命をとっても大切に生きる生き方です。</li> <li>・自分の命だけでなく、周りの命みんなを大切にしていこうことです。</li> <li>・今自分にできることを一生懸命やることです。</li> </ul>
発問	○ 由貴奈ちゃんは、どんなことを考えながらこの詩を山本先生に見せたと思いますか。	○ 由貴奈ちゃんはどうしてこの詩を書こうと思ったのでしょうか。	○ いじめが起っていた学級で、この詩を読んだとき、どんなことを考えたと思いますか。	◎ 「命が疲れたと言うまで精一杯生きる」とは、由貴奈ちゃんのような生き方だと思いませんか。